

日 時：平成 29 年 2 月 7 日（火）18 時 30 分 ～19 時 30 分

場 所：向陽多目的研修集会施設

対象地区：向陽

参加人数：3 名

■意見交換

内 容
<p>○道路関係について</p> <p>（市民からの要望、質問）</p> <p>大鰐浪岡線の現道拡幅について、地権者の同意が得られず事業を一時中止となり、町会への協力を求められたが、同意しない人のところを後回しにして事業は進められないのか。可能であれば総会で審議しやすい。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 県の中南道路施設課と道路課と協議した結果、2 回行った事業説明会で現道拡幅への反対意見の声が多いこと、アンケート調査での現道拡幅及び測量作業に同意しないと回答した関係者が数名いることから、現時点での計画的な事業の実施が見込めないと判断し、今年度予定していた測量作業については行わないこととした。このことから現道拡幅事業は一時休止することとし、概ね 3 年以内の現道関係者及び町会の事業への同意状況を確認しながら、事業再開について検討するということであった。本来であれば、今年度予定していた測量が実施されなくなった。 <p>（市民からの要望、質問）</p> <p>まだバイパス案の考えが根強い。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 考えはわかるがバイパスを作る事業がない。 <p>（市民からの要望、質問）</p> <p>この事業は最初からやり方が変だった。バイパスを作らないといいながらバイパス案を持ってくる。私は道路拡幅に賛成だ。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 当初現道拡幅の要望がきたので県にお願いをしたところ、移転費や保証費の関係で実施できないとなった。他の方法がないか県で検討した結果、バイパス案が出てきたが事業化できずに今に至っている。県から交通安全に関する予算であれば国も措置するので、これによる新たな現道拡幅ではどうかという話がきている。

(市民からの要望、質問)

2 回目の会議でもバイパス案を計画に載せてくる。

(市の回答)

- ・ 現道拡幅ができない場合、バイパス案が比較的いい方法であることを示すために載せてきたと思われる。

(市民からの要望、質問)

町会内ではバイパスが整備されるという考えを持っている人が多い。

(市の回答)

- ・ バイパスの整備が町会の総意となれば、バイパスの整備を申請していくが、いつ事業が実施されるかは言及できない。

(市民からの要望、質問)

現道のそばにバイパスを整備するのはあまり意味がないと思う。現道は大型車の往来が激しい。

(市の回答)

- ・ 昨年も交通規制して欲しいと要望があったが、警察からできないと回答があった。

(市民からの要望、質問)

現道拡幅すると大型車の往来が増えるという人がいる。そのせいで反対する人もいる。

○町会役員への女性参画について

(市民からの要望、質問)

市から町会役員と女性役員の調査がきた。市としては町会役員に女性参画を進めたいのか。

(市の回答)

- ・ 今年度、第3次平川市男女共同参画推進プランの策定事務を進めており、それに関連した調査である。
- ・ 町会でも女性の発言が採用されるような組織となって欲しいと考えている。人口減少が進み町会役員の担い手が少なくなっている中、女性の意見も取り入れていくべきという流れになっているので、今回実態を把握するため調査を行った。

(市民からの要望、質問)

女性を役員にしたことがあるが2期務めてその後女性で役員になってくれる人がいない。市として積極的に推進することであれば総会で議論したい。

(市の回答)

- ・町会で様々なイベントを実施していると思うが、物事を決める際は男性のみならず、実際に現場で活動する女性の意見を取り入れた上で、イベントを実施していただきたいと考える。

(市民からの要望、質問)

公民館事業の運営には多くの女性グループが参画しているが、町会の運営については、女性団体の長を参画させることも考えたが、後継者がなかなか見つからない。

(市の回答)

- ・平賀地域では公民館事業を実施している町会が多い。尾上地域では町会運営と同じように公民館事業を実施している。尾上地域と碓ヶ関地域は平賀地域のような自治公民館がない。

(市民からの要望、質問)

総会で女性参画について話してみる。公民館事業には女性、若い方々を主体にして活動してもらっている。

(市の回答)

- ・組織が上手く機能しているのであれば、そういうやり方もいいと思います。女性が町会の役員になることはなかなか大変だと思うので、女性団体そのものを取り組む形がいいと思う。

○空家対策について

(市民からの要望、質問)

町会内に空家が増えてきた。神社の裏にも2軒ある。敷地内に木が生えてしまっているところもある。中には、空き家にゴミを捨てていく人がいる。

(市の回答)

- ・市全体で空家は692件ある。一人暮らしの施設入所者が増えると空き家が増えてくる。
- ・空家撤去を市が代行していない。仮に代行したとして、全国的に費用を回収できないケースが多い。県内の他市で倉庫の行政撤去を行ったが、回収できていない。
- ・所有者は市で把握しており、所有者へ危険回避するよう連絡しているが、市外在住者ということもありなかなか対処してくれない。

- ・当初 1,478 件と見込まれたが、1 年に 1 回帰ってきている状況等、現況調査した結果、空家と思われるものが 692 件となった。平賀地域は 297 件、尾上地域は 198 件、碓ヶ関地域は 197 件となっている。使えそうな物件については貸すか売るかを調査している。

○人口減少対策について

(市民からの要望、質問)

今後の人口はどうなっていくのか。

(市の回答)

- ・生まれる人が 200 人前後に対して亡くなる人が 350 人程度となっており、また、転入者より転出者が多いことから、1 年間で 350 人ずつ減少している。合併直後の平成 18 年は約 36,000 人であったが、10 年経って約 32,000 人となった。これに歯止めを掛けるため、平成 27 年 12 月に総合戦略を策定し、これを基礎としながら今後 10 年間の長期総合計画を策定しているところである。人口減少を防ぐため、子育て支援、雇用創出、結婚していただく方々を増やすなど、様々な取り組みを行っている。
- ・平川市は、県内でも比較的住みよく暮らしやすい市であると評価されており、館山・松崎方面は弘前市も近く住宅の建築が増えている。
- ・本来、市街化調整区域にある農地には住宅を建築できないが、昨年県と規制緩和について協議し、30ha ほど緩和区域を増やした。いろんな業者に開発して欲しいと考えるし、業者の開発に係る側溝整備にも補助している。このように人口が増えるような努力をしている。

(市民からの要望、質問)

中心部は増えるかもしれないが、町会によっては人口も戸数も減少し、空家も増えていく。

(市民からの要望、質問)

- ・ねぷたを行うにあたり若妻会は参加しているが、子どもが少ないことが一番問題だ。今は昔のように一人っ子家庭は少なくなっているようだが。

(市の回答)

- ・より多くの子どもを育てていただくため、第 2 子以降保育料無料化を行っている。これまで所得制限はあるが小学生まで医療費の無料化を行ってきたが、平成 29 年度から所得制限を撤廃して対象者を拡大する予定でいる。医療費の無料化については全国一律の基準で行って欲しいが、国も社会保障費が増加し続けている中で実施できない状況にある。市町村それぞれで支援策が異なることから、競争状態になっている。

○平成 29 年度当初予算の特徴について

(市からのお知らせ)

- ・婚活支援事業として、結婚の世話人に各町会にいてもらって、その世話人が年に何回か集まって情報交換会を行っていきたいと考えている。各町会へ3月までに名簿の提出を依頼している。
- ・これまで就学前まで無料であった医療費について小学生まで対象を拡大し、子育てしやすい環境を対外的にアピールしていく。
- ・「あふれる笑顔暮らし輝く平川市」を将来像とした第2次長期総合プランの策定に向け進めている。その一環で、小学生、中学生、高校生、30歳以下の若手職員が集まり、ワールドカフェという形式で、グループで平川らしさを7つ検討した。
- ・“「子育てしやすさナンバーワン」のまち”とした。
- ・東洋経済新報社で813の市区で住みよさランキングを出しているが、昨年のランキングで平川市は北海道・東北で6位、県内では1位となっているので、“住みよさを実感できるまち”とした。
- ・健康で長生きできる人が多くなるように“「健康寿命青森県ナンバーワン」のまち”とした。
- ・今、杉の間伐材を活用したバイオマス発電を行っており、県内初のバイオマス産業都市として認定された。今後はさらに循環型社会を進めるため、食品廃棄物の発酵で発生するメタンを活用したバイオガス発電や、廃熱を利用したハウス栽培も予定しており、“新エネルギーで環境にやさしいまち”とした。
- ・昨年県から取得した食ラボを活用した6次産業を作り出すということで、“新たな食の産業を創出するまち”とした。
- ・12月14日に県と市と台湾の台中市と友好交流協定を締結し、海外とのつながりを含めながら交流人口の拡大をしていきたいということで、“海外に目を向けた観光・交流のまち”とした。
- ・平川市は県民体育大会で10市中3位となり、スポーツ人口も多く、これが健康づくりにつながって欲しいと考え、5月から総合運動施設の陸上競技場も供用開始となるということで、“スポーツで元気なまち”とした。

○ふるさと納税について

(市からのお知らせ)

- ・平成28年度のふるさと納税は約2億円を超える見込みとなった。先日の新聞報道は12月初旬の調査結果であり、現時点では約2億7千万円となっている。この使い道は企画財政部で配慮している。
- ・ふるさと納税のあり方について賛否両論あるが、平川市のリンゴのPRにもなっており、リピーターも多い。JA中央センターで対応してもらっており、糖度保証が人気となっていると考えられる。

- ・本来のふるさと納税の目的とは異なっているとは思いますが、特産品であるリンゴを県外にPRする機会である。トップセールスは、限られた場所でのPRとなる。ふるさと納税は全国にPRできるので、いい宣伝になっていると思う。

○健康づくりについて

(市民からの要望、質問)

地域の健康づくり事業を実施して3年目になる。

(市の回答)

- ・町会から提出された申請書の内容を確認したところ、2回実施するとあったので、もう少し増やしていただけたらと考えている。

(市民からの要望、質問)

今まであまり健診を受けていなかったが、委員から勧められて受診した。普段から通院していないとなかなか受診しない人が多いと思う。

(市の回答)

- ・健診はぜひ受診してほしい。症状が出る前に健診の数値でわかる病気もある。保健師が丁寧に一人ひとりお知らせしている。健診を広め受診率を向上させていきたい。
- ・地域の健康づくり事業は市内約10箇所で実施しているが、夏場は忙しいため冬場の開催が多い。開催回数が多い地域では週1、2回実施しているところもある。